

1年 音楽科学習指導案

授業者 渡邊 莉加

1. 題材名 「いいおとみつけ！～おとでジャンケンポン～」（音楽づくり）

2. 題材の目標

- 身の周りの様々な音の特徴や、打楽器の音色と鳴らし方との関わりに気付き、即興的に音を選んで表現する技能を身につける。 [知識及び技能]
- 楽器の音色と自分の表したいイメージとを結びつけて即興的に音を選んだり、音の出し方を工夫したりして音楽づくりの発想を得る。 [思考力、判断力、表現力等]
- 身の周りの様々な音や打楽器の音色と鳴らし方との関わりに興味をもち、友達と関わりながら音楽活動を楽しむ。 [学びに向かう力、人間性等]

3. 子どもと題材

本学級の子どもは、歌うことや音楽に合わせて体を動かすことが好きである。これまでの学習の中で、歌詞の表す様子を想像しながら歌ったり、曲の感じや速度に合わせて身体表現やリズム打ちをしたりする活動を行ってきた。中でも『かもつれっしや』『しろくまのジェンカ』は人気で、子どもからのリクエストが多く、楽しく活動する姿が見られた。しかし、どちらの曲も一人ではなく複数人で列をつくって動くため、一人ひとりの動く速さが違うことで列が分裂したり衝突したりしてしまう。初めはそのうまいかなさを感じている姿も見られたが、回数を重ねるごとに、伴奏や友達の歌声によく耳を傾けたり、前の人を見て動きを合わせたりする子どもが増え、列を崩さず動けるようになっていった。そして教師が伴奏の速度や強弱を変えるとすぐに気付いて、動く速さや声の大きさを変えて楽しんだ。簡単にできるものよりも、多少の難しさを感じてそれを解決していくことに子どもは楽しさを感じているように思う。それだけ音楽活動に意欲的なことがうかがえる。

また楽器への関心も高い。学習の中でどんな楽器を知っているかを尋ねた際には、「バイオリン」「エレクトーン」「ドラム」など様々な楽器の名前が挙げられた。全校に向けて学級文化を紹介し合う「つどい」の時間に音楽委員会が器楽合奏をした際には、それまで友達と会話を楽しんでいた子どもや別の方に向いていた子どもも顔を前に向け、演奏にじっくりと耳を傾けていた。「つどい」の後に行った振り返りでは、「鉄琴の音がすごくきれいだった」「音が響いていた」など多くの子どもが演奏についての感想を述べた。これまで学習の中で扱ってきた楽器は、主に「鍵盤ハーモニカ」と「タンバリン」であるが、それ以外の「鉄琴」「木琴」「バスマスター」「リコーダー」など様々な楽器の生の音色を耳にしたことで、子どもの楽器への関心はさらに高まったように思えた。

このように、音楽活動に意欲的に楽器への関心が高い子どもたちだからこそ、これまで生活の中に馴染んでいた「音」の存在や楽器やその鳴らし方による「音色」の違いに気付くことで、自分の出す歌声や楽器の音色にこだわるなど、よりよい生活や豊かな音楽表現につなげていってほしいと願う。

そこで本題材は、「音色」に焦点を当てて音楽づくりの活動を行っていく。「音でジャンケンをしよう」という活動に向かうために、子ども一人ひとりが「音色研究員」であるという設定のもと、様々な「音」をじっくりと聴く活動を行う。まずは生活の中に馴染む「音」を扱うことで、楽器では出すことのできない音の面白さに気付き、意識的に音を聞いて生活したり、音や音楽をより身近な存在であると認識したりするだろう。

音楽づくりのテーマとしては「ジャンケン」を扱う。ジャンケンは子どもにとって非常に身近であるからこそ、創作意欲の高まりや日常生活と音楽とを自ら結びつけていく姿を期待する。「グー」「チョキ」「パー」の3つの音色を選択する場面では、言葉そのものがもつ印象や、出した時の手の形がもつ印象、具体物がもつ印象（石・はさみ・紙）など、子どもは様々な視点から音楽づくりの発想を得るだろう。また、「ジャンケンポン」という短い音楽だからこそ、一発の音色にこだわって楽器を選択したり鳴らしたりするだろう。

このように、子どもは本題材を通して様々な「音」の存在に気付き、音色の違いにふれていくことで、

音に敏感になっていく。そして、日常生活の中のあらゆる音の感じ方が豊かになり、今後の音楽活動においても、自分の出す声や楽器の音色など、「音」にこだわって、より豊かな音楽表現を目指していくと考える。

4. 本題材における『その子らしく学ぶ』～本単元で願う「心の動きを伴う経験によってその子に還るもの』～

普段の生活に馴染む「音」を視覚から情報が一切無い状況で聞いた子どもは、「どこかで聞いたな」「何の音だろう」と音の正体について思考を働かせるだろう。ある子は「教室にある物の音な気がする」と周りを見渡したり、またある子は「筆箱を振った時の音じゃない?」と実際に自分で音を出したりするなどして音の正体をこれまでの生活経験の中から見つけようとするだろう。そして子どもは、無意識だった「音」に意識を集中させて聴く経験により、身の周りの物が出す音の魅力に気付き、「他にも面白い音がありそうだ」「もっといい音ないかな」と音探しへ意欲的に出掛けるだろう。しかし、台の上で足踏みをしたり机を鉛筆で叩いたりと、楽器以外の物で音を出す行為は日常生活の中で制限されているものもある。だからこそ、物を楽器のように扱い、思う存分音を鳴らすことのできる状況は子どもにとって新鮮だろう。教室を歩き回り、様々な物に触れ、友達と「いい音」についての意見を交わしていく中で、音色の違いを実感し、普段の生活の中でも身の周りの「音」へ意識を向けるようになっていくだろう。

第②時で子どもは打楽器アンサンブルの演奏と出合う。音を鳴らす対象が物から楽器へと変わることで、子どもは前時までとは違う「音色」の美しさや響きを感じ取るだろう。プロの演奏を見たり聴いたりすることで、打楽器の取り扱い方や奏法にも気付き、実際に鳴らしてみたいという思いをもつだろう。様々な打楽器を何度も試す中で、「あの時の音に似ている」と身の周りの物の音につなげたり、「キーンって聞こえる」と言語化してみたり、「ぐぐ」と音の形のイメージを絵や図に示したりするなど、「音色」の違いを実感して音のイメージを具体化していくだろう。また、一つの楽器から色々な音が出来ることに気付いた子どもは、グループの友達と楽器の持ち方や叩き方、振り方についての意見を交わし、様々な鳴らし方を試すことで、一つ一つの楽器の魅力や音色の違いを実感していくだろう。

ジャンケンをテーマに音楽づくりを始めた子どもは、まず「グー」「チョキ」「パー」のそれぞれがもつ言葉や物のイメージを友達と共有するだろう。その中で「グーは石みたいに固い音にしたいな」「チョキは短くてするどい感じを出したいな」と自分の表したい音についての思いをもつだろう。ジャンケンに合う音のイメージをもった子どもは、実際に楽器へ向かい「もっと固い音がいい」「これだと音が小さすぎる」と考え、自分の表したい音に向かって何度も楽器や鳴らし方を変えながら試すだろう。そして音色とじっくり向き合う中で、自分の表したい音にたどり着き、自分なりの音ジャンケンが完成する。完成した子どもは、友達と互いにクイズを出題し合う中で、人それぞれ選ぶ楽器が違うことに気付いたり、様々な楽器の鳴らし方や表現の仕方から新たな音楽づくりの発想を得たりするだろう。そして自分の目指す表現が更新され、「やっぱりこっちの楽器にしようかな」「もっと叩き方を変えたらグーっぽいかな」といった試行錯誤が生まれる中で、より満足感のある音楽を完成させるだろう。

このように音や言葉で自分の感性を伝えたり、自分とは違う感性をもった友達との出会いを楽しんだりする中で、自分の目指す表現が何度も更新され、そこに向かって試行錯誤を繰り返すことで、その子の音楽的感性がさらに磨かれていくことを願っている。

5. 題材構想（全6時間扱い／本時は第④時）

＜教師の投げかけ＞ 子どもの表れ 最終時における子どもの表れ

○教師の働きかけ

① < 何の音でしようクイズをしよう >

- ・紙を丸めた音だと思う
- ・ボールをつく音がする
- ・教室にもいろいろな音があるね
- ・教室にある物の音な気がする

○子どもが音の正体について思考を働かせられるよう物は見せずに録音した音のみを流す。

< 身の周りの「いい音」を探しにかけよう >

- ・ドアを閉める音が「ゴオ～～～」って聞こえて面白い
- ・ブラインドのひもを手でこすると音が鳴るよ
- ・教室の外にも出て探してみたいな

< 自分の見つけた「いい音」を紹介しよう >

- ・算数ボックスのおはじきケースを振るとマラカスみたいな音だよ
- ・バケツを太鼓みたいに鳴らすこともできるよ
- ・もっといい音を探してみたいな

② < 打楽器の演奏を聴いてみよう >

- ・つどいで音楽委員会も演奏していた楽器がある
- ・きれいな音だな
- ・叩いたり振ったりして音を鳴らしているね

< それぞれの楽器はどんな音色かな? >

トライアングル

「チーン」「ジリリリ」



タンバリン

「パンパン」「シャラシャラ」



ウッドブロック

「カッコ」



エッグシェイカー

「シャカシャカ」



カスタネット

「カッカッ」



すず

「シャンシャン」



- ・トライアングルの音は椅子の脚を叩いた時と似ていたよ
- ・ウッドブロックの音が面白かったよ
- ・タンバリンからいろいろな音を見つけたよ

③ < 打楽器の音研究：いろいろな音を出そう >

トライアングル

- ・すみっこをたたいてみよう
- ・おさえたまま打ってみよう

タンバリン

- ・グーでたたいてみよう
- ・たてに振ってみよう

ウッドブロック

- ・右と左と一緒にたたこう
- ・内側をたたいてみよう

エッグシェイカー

- ・大きく振ってみよう
- ・両手に持って振ろう

カスタネット

- ・指でたたいてみよう
- ・横に振ってみよう

すず

- ・小さく振ってみよう
- ・トントン叩いてみよう

- ・一つの楽器からいろいろな鳴らし方を見つけたよ

- ・楽器って面白いね

○様々な音を探すができるように、子どもの思いに合わせて活動場所を教室以外にも広げる。

○発表時に活用できるように、見つけた音はiPadのボイスメモや動画等で残すことを伝える。

○打楽器の様々な奏法を見つけることができるよう、打楽器アンサンブルの映像を見せる。

○音色がよく聴こえるように、活動場所を音楽室とし、部屋を分けたり楽器を離して配置したりする。

○音色の違いに気付くことができるよう、楽器を鳴らす時間を十分に確保する。

○活動の見通しをもつことができるよう、いくつかの楽器を例で取り上げ、どのように聴こえたかを全体で共有する。

○自分なりの音色のイメージをはっきりともつことができるよう、聴こえた音色の特徴を絵や線、言葉でワークシートに書く活動を設定する。

○楽器の持ち方や叩き方、振り方について様々な考えに合うことができるよう、グループで活動を行う。

○楽器の鳴らし方による音色の違いの面白さに気付くことができるよう、全体共有の場で出てこなかった鳴らし方については、教師から補足して紹介する。

④ (本時) < ジャンケンのイメージに合う音を探そう >

「グー」	「チョキ」	「パー」
・石	・はさみ	・紙
・ゴロゴロ	・するどい	・パラパラ
・かたい	・とがってる	・うすい

- ・石みたいに固い音はカスタネットかな
- ・「チョキ」はするどい音がいいからトライアングルにしよう
- ・手のひらをパーにして叩いた音が「パー」に聞こえる

< 友達はどんな楽器を選んだのかな >

【ジャンケンクイズ】

A: 「ジャンケン ♪ジリリリリ～～ (チョキ: トライアングル)」

B: 「グー」「チョキ」「パー」のどれなのかを音から予想する

- ・友達の選んだ楽器が似ていたよ
- ・全然違う楽器を選んでいてびっくりした
- ・本当にタンバリンを「パー」の手で叩いて面白かった！
- ・もう一度考えてみたいな

⑤ < 選んだ楽器でジャンケンクイズを出そう >

- ・「グー」はカスタネットだったけど、タンバリンに変えよう
- ・友達がどの楽器を鳴らすのか楽しみだな
- ・勝ったか負けたか音だと分かりにくそう

A: 「ジャンケン ♪ジリリリリ～～ (チョキ: トライアングル)」

B: 「ジャンケン ♪シャンシャン～～ (パー: すず)

- ・同時に鳴らすとおもしろいね
- ・勝ち負けがよく分かんかったよ
- ・同じ楽器なのに「グー」と「パー」で不思議だね

⑥ < 歌に合わせて楽器を鳴らそう >

♪『やきいもグーチーパー』

やきいも やきいも おなかが グー (立つ⇒鳴らす⇒座る)
 ほかほか ほかほか あちちの チー (立つ⇒鳴らす⇒座る)
 たべたら なくなる なんにも パー (立つ⇒鳴らす⇒座る)
 それやきいも まとめて グーチーパー (立つ⇒鳴らす)

- ・歌に合わせて楽器を鳴らすと楽しいね
- ・立ったり座ったり忙しくて大変だな
- ・他の歌にも楽器を合わせてみたいな

- ・いろいろな音色や楽器の鳴らし方があることを知ったよ
- ・自分のイメージに合う打楽器を見つけられたよ
- ・友達と音でジャンケンすると、音が重なっておもしろかった
- ・もっといろいろな曲に合わせて楽器を鳴らしたいな

○「グー」「チョキ」「パー」のイメージを広げることができるように、板書に手の形を掲示したり文字で表したり、具体物の写真を貼ったりする。

○自分の表したい音色を実際に楽器を鳴らしながら見つけることができるよう、十分な楽器の数とスペースを確保する。

○次時の活動のイメージをもったり、友達の考えにふれたりすることができるよう、数名の子どもに代表でジャンケンクイズを出してもらう。

○勝ち負けにこだわるのではなく、選んだ音色の違いに注目できるよう、ジャンケンの後に必ず音色についての感想を伝え合うように促す。

○楽器を鳴らす活動を充分に楽しむことができるように、「やきいもグーチーパー」の歌については、本題材に入る前に歌唱教材として扱い、歌ったり曲に合わせて動いたりできるようにしておく。

○今回の題材で子どもが何を学んだのか教師がとらえられるよう、ワークシートを書いて振り返る活動を設定する。